

3-① 患者中心の医療を支える先進医療拠点の形成

施設整備の目的

患者中心の質の高い先進医療を提供することを目的に、計画的な病院整備を実施

整備前の課題

患者アメニティの不足

- 6床室が多く、病室が狭隘化しており、患者の療養環境が悪化
また、狭隘化した6床室ではプライバシーの確保が困難
- 浴室・トイレ等の老朽化・狭隘化により患者のアメニティ環境が劣化

医療・療養・労働環境の悪化

- 医療機器の増加等により手術部・救急部が狭隘化しており、高度化する医療や手術待ち患者、救急患者の増加等への対応が困難
- 施設設備の老朽化により、安全・安心な労働環境の確保が困難

施設の維持管理費の増大

- 施設設備の老朽化により効率的運転が困難となり、維持管理費が増大



手術室の狭隘状況

課題の解決

患者アメニティの充実

- 6床室を4床室にすると共に個室率を引き上げることで、快適な療養環境と患者のプライバシーを確保
- ストレッチャーのままでシャワーが可能な介護浴室を整備するなど、患者のアメニティ環境を改善
- 室内を温かみのある色調で統一し、療養環境を改善



広く温かみがあり快適な病室

高度先進医療・救急医療への対応

- 手術室を9室から12室に拡充整備することにより、手術待ち患者数を縮減
- 術中MRI(核磁気共鳴画像法)装置などの先端医療に対応した手術室を設置
- 救急部の面積を従来の約4倍に大幅拡充し、施設機能を向上させたことにより、増加する救急患者への対応が可能



術中MRIなど高度先進医療の提供を可能にする手術室

整備による教育・研究・診療への効果

ゆとりと安心の療養環境を実現

- 老朽化・狭隘化した病室を解消し、暖かみのある色調で整備したことにより、空間にゆとりが生まれ、**安心とやすらぎのある療養環境を実現**
- コンパクトな病棟とし、スタッフステーションを大空間化したことにより、**手厚い看護と業務の効率化を実現**



緑豊かな庭のある療養環境を実現

質の高い先進医療・救急医療の提供

- 先端医療に対応した各手術専用の手術室を配置したことにより、**高度な先端医療を多くの患者に提供が可能**
- 救急部の機能を大幅に充実したことにより、**地域の救急医療として安心な環境を確保し、大規模災害時の拠点としての機能を強化**



画像支援など先端技術を活用した手術を実施

教育機能を充実し優れた医療系人材を育成

- 画像診断や高度な手術などの先端医療に触れることで、**より実践的な教育を実施**
- 病室を4床化したことにより、**ベッドサイド・ティーチングのスペースが確保され、臨床教育機能が充実**
- 救急部においては重篤患者の救急処置を間近に実習するなど効果的な臨床研修が行われ、**より実践的な教育により優れた医療系人材の育成が可能**



充実した教育による優れた医療系人材の育成

3-② 病棟の高度化・快適性向上による高度先進医療の推進

施設整備の目的

病院の基本方針である「人間性豊かな医療環境の実現」や「先進医療の開発と提供」等を実現するため計画的な病院整備を実施

整備前の課題

老朽化・狭隘化による病院機能の低下

- 老朽化にともなう施設機能低下により高度先進医療の提供や重篤な患者受け入れのための環境が不十分
- 病室の居住環境の悪化や個室の不足、面談室や食堂等の不足により、患者サービスの質の低下やプライバシーの確保が困難

医学系と歯学系の診療連携が困難

- 医学系の病棟と歯学系の病棟が別棟となっており、入院窓口や手術部等をそれぞれ持つなど非効率な状態であり、病院の管理運営や患者サービスの面からも効率が悪い



狭く老朽化した6人床の病室

課題の解決

快適で効率的な運営ができる病棟

- 6床室を4床室とし、個室病室を増やすなど快適な療養環境を確保
- 医系と歯系の病棟を一体的に整備したことにより、手術部・材料室・看護体制等の共有化が図られ、効率的な診療体制を構築
- 歯系の病床(40床)の運用を見直し、効率的に病床を稼働させるため新たに医学・歯学共通病床(16床)を整備



快適な療養環境の個室病室

救急医療や大規模災害に対する機能強化

- 救急部を整備するとともに屋上にヘリポートを整備し、重症救急患者の受け入れに対応
- 災害時の緊急医療活動の拠点としての機能を強化するため、高い安全性を確保するため免震構造による耐震化を行い、医療機器の転倒防止等を図り災害時の継続使用が可能



救急部やヘリポートの整備により重篤な患者の受け入れを実施

高度先進医療のための環境の整備

- 最新の医療システムを導入し、ICU(集中治療室)、HCU(高度治療室)、NICU(新生児集中治療室)、バイオクリーンルーム等の高度な先進医療を提供する環境を整備し、特定機能病院としての機能を強化



NICUなどの高度な医療環境を整備

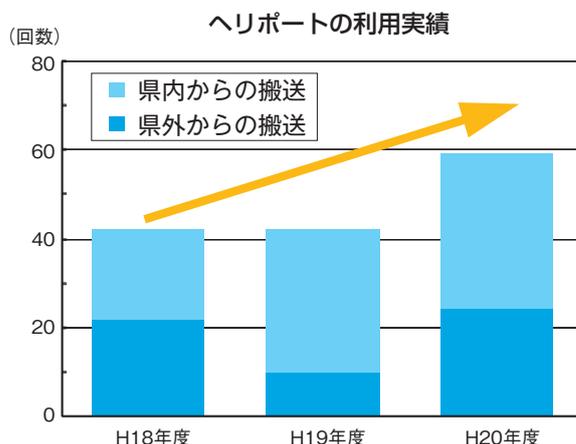
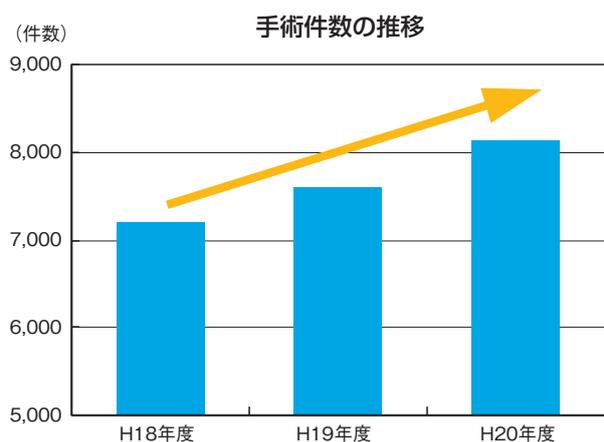
整備による教育・研究・診療への効果

高度先進医療の提供を実現

- 手術件数が上昇し、心臓血管外科においては小児の先天性心疾患患者の手術をはじめ年間 500 件に上る手術を行うなど病院機能が強化
- ヘリポートの整備により、岡山県内外から搬送される重篤患者の受け入れが可能となるなど、中国・四国地方の中核的医療機関として質の高い医療を提供
- 心臓疾患患者に対応する専用のICUを成人用、小児用ともに整備したことにより、緊急手術にも対応が可能
- 全身疾患を伴う歯系の患者への医療について、関連する医系診療科とのチーム医療体制を強化



PCICU(小児科心臓集中治療室)等の高度先進医療を支える環境

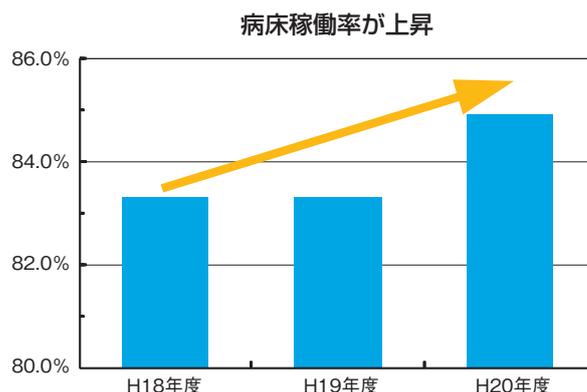


計画的な病院整備により効率的な運営を実現

- 医系・歯系の一体的な病棟整備により、適切な人員配置や診療施設の共有化が可能となり、効率的な病院運営を実現
- 病室の個室化や高度な医療が提供できる環境となり、診療が活発化し病床稼働率が上昇、病院の経営効率化を実現
- 入院窓口の一元化により、入院相談等の患者サービスの質が向上



施設の共有化・一元化により人員配置が適正化



施設整備の目的

地域の中核的医療機関として、高度先進医療、患者サービス、臨床教育、防災・緊急医療等の病院機能を充実

整備前の課題

高度先進医療・医療体制改善への対応が困難

- 施設の老朽化・狭隘化により高度先進医療への対応が不十分
- 診療スペース等が分散しており、医療体制の改善にあわせた効率的な運営が困難
- 先端医療の臨床研究施設が不足し、臨床教育・研修に支障

患者サービスの低下

- 受付の混雑等が常態化し、患者サービスが相対的に低下
- 外来診療室等の狭隘化によりプライバシーの確保が困難

大規模災害への対応が困難

- 施設の老朽化により大規模災害時に病院機能を維持することが困難
また、設備も老朽化しており、エネルギー効率が低下、維持管理費が増大



外来受付窓口の混雑状況

課題の解決

高度先進医療・医療体制改善への対応

- 手術室や重症病床(ICU,CCU,NICU等)を充実し高度先進医療に対応が可能
- 医療体制の改善にあわせ中央診療・外来診療・病棟を計画的に整備

患者アメニティの充実

- 外来受付窓口のスペースを刷新し、IT化を推進することにより、受付の機能が向上
- 診察室等の狭隘化を解消し、患者プライバシーに配慮した空間に整備
- ホスピタルモールやギャラリー等を明るく開放的なイメージで整備し、快適性を向上



プライバシーに配慮した個室の診察室

大規模災害への対応

- 免震構造などにより建物の耐震性・安全性を確保し、地震発生等の大規模災害時の病院機能を確保
- 大規模災害に備え、廊下幅を広くし治療スペースとしての活用や医療ガス設備の整備、資材等備蓄スペースの確保等により、災害拠点病院としての機能を強化



地下に免震装置を設置するなど地震対策を実施

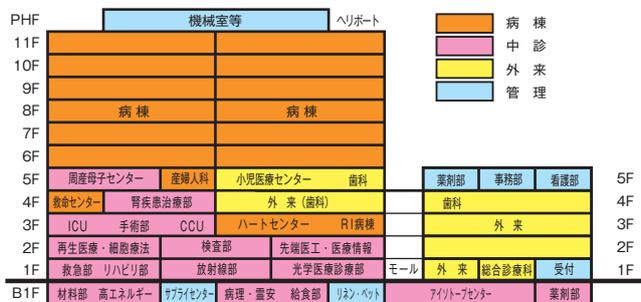


混雑が緩和された外来受付窓口

整備による教育・研究・診療への効果

地域の中核的医療機関としての機能強化

- ヘリポートを併設した救急救命センターや総合周産期母子医療センター、高度先端医療センター等の設置により**高度先進医療に対応した診療体制が充実し、地域の中核病院としての機能が強化**
- 先端医療の臨床研究や臨床教育の機能が充実し、**全人的医療が可能な医療人の養成をさらに推進**
- 外来患者の待ち時間短縮、各診療科等へのアクセス改善、プライバシーの確保された診察室、バリアフリーや快適性に配慮した環境整備等により、**患者サービスが向上**



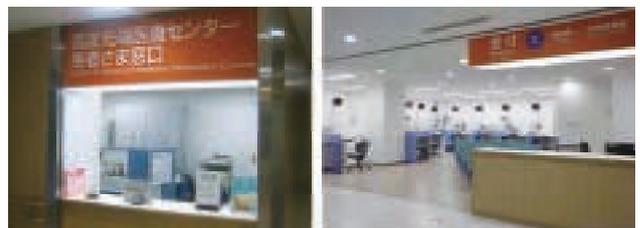
機能的な診療施設の配置



最新の機器を導入した検査室



来院者への配慮が行き届いた快適な環境



わかりやすい表示で様々な来院者に配慮

地球温暖化対策への貢献

- 省エネルギー化を推進するため、高効率な照明器具の採用や外気冷房・熱回収等の空調システムの導入、ボイラー燃料を重油からガスへ転換などを実施し**地球温暖化対策に貢献**
- 外来診療棟の開院後、**CO₂排出量は減少傾向にあり、排出総量は前年度(平成20年度)と比較して約6%を削減**

病院全体のCO₂排出量の比較 (平成20~21年度)
※平成21年9月外来診療棟完成後の推移

